

学長業績評価 自己評価書

所信表明に掲げた項目への取り組み実績等を記載してください。

| No. | 項目 | 自己評価 |
|-----|----|--|
| 1 | 教育 | <p>所信表明に掲げた5項目（①教育改革2015、②優秀な学生の確保、③トップレベルの臨床英語教育、④臨床医学教育の魅力構築、⑤看護学科の充実）を着実に実行しております。</p> <p>①リサーチクラークシップの海外展開拡大など奈良県立医科大学の将来像に掲げた教育改革2015の主要10項目を実行しました。②医学科後期入試偏差値（河合塾）でトップ5を達成しました。③ネイティブスピーカーの教員増員、英語スピーチコンクール等を実施しました。④外科マスター医制度の継続、ドクターN教育システムの充実など他学にはないプログラムを実施しました。⑤成人看護学領域を急性期と慢性期に分離し、慢性期の教授職を新設しました。</p> <p>その他に、THE世界大学ランキングでランク入り達成、ハーバード大学の医学教育部門との連携協定、奈良医大ーミシガン大学連携コースの設置による大学院教育の充実などを行いました。学生だけでなく保護者とのコミュニケーションも大切に、入学時や白衣授与式における保護者との交流を深め、医学科6年生の保護者全員に手紙を出すなど積極的な保護者への働きかけを行いました。これらの取り組みが、マッチングにおける高い定員充足率に繋がっていると思っております。</p> |
| 2 | 研究 | <p>所信表明に掲げた5項目（①研究者の育成支援、②学外機関との連携、③重点研究、④女性等研究者育成制度、⑤有識者委員会等）を着実に実行しております。</p> <p>①大学院への進学支援、科研費獲得支援等を行い、科研費獲得件数が増加しました。②WHOや情報通信研究機構（NICT）との共同研究を進展させ、けいはんなRCを通じて研究成果の世界への発信を行いました。③重点研究である血栓止血研究に関して4つの講座（大学が設置した1講座と3寄付講座）を新設し、血栓止血研究センターを充実させました。④研究援助制度により、女性の科研費獲得が対前年比11件増加（全体で20件増）しました。⑤1期目に設置した学外有識者委員会による外部評価において、高評価をいただきました。</p> <p>その他に、高井病院内に陽子線がん治療研究センターを開設し、連携大学院を設置しました。奈良先端大との共同研究を開始し、研究内容マッチング、共同研究助成などを行いました。また、中谷医工計測技術振興財団から総額3億円の寄付講座を獲得しました。</p> |
| 3 | 診療 | <p>所信表明に掲げた5項目（①病院経営、②附属病院の高度化、③救急医療体制、④高度医療機器の運用、⑤地域医療機関との連携）を着実に実行しております。</p> <p>①理事長・役員と病院長との連携強化を図るため理事長を中心とする病院経営管理会議を役員会と併設する形で設置したことにより、法人執行部の方針が現場（病院）に浸透するようになりました。②最新式の電子カルテの導入を行うなど附属病院の高度IT化に取り組みました。③新教授のもと救急医療体制の充実を図り、DMAT隊チーム編成を1チーム増設しました。④高度医療機器の運用のための人員増強を行い、その後の効果検証で機器は予定通り活用されていることを確認しました。⑤地域医療機関との緊密な連携に務め、紹介率、逆紹介率が向上しました。</p> <p>その他に、1期目に設置した外科マスター医制度を継続し、マスター医の増加が見られました。臨床研究中核病院を目指して臨床研究センターの主任教授を専任し、糖尿病・内分泌内科学講座の設置を決定しました。</p> |

| | | |
|---|--|---|
| 4 | 総合 | <p>所信表明に掲げた5項目（①MBT 構想、②橿原キャンパス外施設、③未来への飛躍基金、④新キャンパスと県との意思疎通）を着実に実行しております。</p> <p>①MBT コンソーシアムのメンバー企業は100を超え、大幅な進展を遂げています。本学の全国における存在感向上のため、東京大会を2回実施し、本学発ベンチャー「MBT リンク」の設立、医学論文内容の製品化を目的としてMBTロゴマークの付与などを行いました。②本学が費用負担することなく東京キャンパスと高井病院内キャンパスを開設し、それぞれに連携大学院を設置しました。本学内ではできない教育・研究・臨床の進展を図ります。③本学同窓会との密接な連携のもとに、基金の安定的な募集に力を入れており、本学発展に有効活用しています。④1ヶ月に1回の知事との定期面談等を通じて県と緊密な意思疎通を行い、新キャンパスとそれに続く計画の意見交換を行っています。</p> <p>その他に、女性の活躍を促進するためになかよし保育園の充実、ミシガン大学との連携協定締結（教育、研究、臨床などの包括的協定）などを行いました。</p> |
| 5 | その他 (法人運営 または 学長選考基 準に示され た資質の発 揮度等につ いて) | <p>法人の運営は私のリーダーシップのもと、役員のみなさんの協力を得て行ってきました。教育・研究に関しては車谷医学部長、診療に関しては古家病院長、法人運営に関しては杉山（平成30年度）、西浦（令和元年度）総務・経営担当理事にご担当いただき、全幅の信頼を置いております。厳しい外的環境を考慮しますと、法人経営は関係者のご協力のおかげで、良好に推移しているものと考えています。</p> |
| 6 | 総合評価 | <p>2期目の本学の運営について、奈良県の評価委員会（委員長：垣内喜代三・奈良先端大副学長）、学外有識者委員会（委員長：松本紘・理化学研究所理事長、元京大総長）など外部評価の先生方に、概ね高い評価をいただくことができました。</p> <p>平成30年4月1日の再任以降、学長としての日常業務を遂行してきただけでなく、時代に即した適切な対策、本学独自の事業を行って参りました。MBTなど他学にない本学独自の事業を推進してきたのは、本学が他大学医学部の「従たる大学」ではなく、自己決定できる「主たる大学」として20年後も存続できるようにするための礎を作ることが私の最大の責務だと考えているためです。すでに開始している事業だけでなく新事業を発展、継続することにより、本学の全国における存在感をますます大きくしていく所存です。</p> <p>(※ 参考資料として別紙を添付しています。)</p> |

令和元年 9月 17日

奈良県立医科大学 学長

細井裕司 